

株式会社東芝 生産技術センター サイトレポート情報

所在地	横浜市磯子区新磯子町33番地
敷地面積	40,123 m ² 、建家面積：50,103 m ² 、緑化率 16.4 %
設立	1970年4月、従業員：772人（2010年3月現在）
主要製品	生産技術に関する研究開発及び設備開発ならびに建築物等に関する企画、設計、監理ならびに技術指導
ISO14001認証取得	1997年2月、最新更新年月：2009年2月（ISO認証番号：EC97J1007）



ごあいさつ

生産技術センターは、東芝グループのモノづくりのセンターとして、「モノづくりに関する技術・しくみの研究開発」、「モノづくりのあるべき姿の発信」、「技術・しくみのタイムリーな提供」をミッションとしています。
そして「かけがいのない地球環境」を健全な状態で次世代に引き継ぐため、環境への取り組みを経営の最重要課題として位置付け、「環境調和型生産技術の開発」と「事業プロセスでの環境負荷低減」を推進する「環境経営」を全員参加で展開しています。



環境保全責任者 隅田 敏

2009年度の環境の主な取組み

- ☆ ISO14001環境マネジメントシステム
1997年4月に認証取得、2009年2月に4回目の更新、2010年2月1年次サーベイランス。
- ☆ CO2排出量の削減
エネルギー起源のCO2排出量を1993年度（当センター基準年）比、43%削減。
- ☆ 廃棄物ゼロエミッションの継続
2001年度から継続中。2009年度の最終処分率は、0.1%。
- ☆ 環境調和型生産技術の創造と東芝グループへの成果発信
環境活動賞：優れた研究テーマ、装置開発を表彰。成果発信（社内HP 6件、東芝環境展 1件）
- ☆ 資材取引先に関する環境配慮
取引先のグリーン度調査と支援（取引先支援 2件）
- ☆ 全員参加・啓発活動の展開
環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境家計簿参加等。
- ☆ 地域との協働
地域への各種環境行事の参加、清掃ボランティア、インターンシップ大学生受入（3大学から3名）等

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

◆ 環境調和型研究テーマの推進

全ての研究テーマについて有害性、有益性の環境影響評価を行ない、環境調和型研究テーマとして環境側面の目標を定め、推進しています。成果は、東芝グループ内外へ、一部はホームページ等でも発信しています。

<事例> 東芝グループ内の部署と連携し、LED電球の光源部品の量産プロセス構築に貢献しました。

◆ 環境調和型設備開発の推進

東芝グループへ提供する生産設備を生産技術センターの「製品」として位置付け、東芝のECP(Environmentally Conscious Product、環境調和型製品)のガイドラインに基づき、生産設備に合わせた基準で、ECP創出を推進しています。

業界最高※1の明るさと効率を実現

LED電球 一般電球形8.7W(黒白色相当)	
明るさ (全光束) 810 (lm)	効率※2 93 (lm/W)
電球60Wタイプ と同等の明るさ	消費電力8.7W
一般白熱電球 60W形 消費電力54W 15(lm/W)	電球形蛍光灯 60Wタイプ 消費電力12W 68(lm/W)

※1 2009年9月30日現在当社調べ
※2 1Wの消費電力で明るさがどれくらい発生するかをlm/Wであらわす数値が高いほど効率が良い

環境コミュニケーションの紹介

- ・環境報告書の発行 10月(2003年より継続)
- ・地域との交流
 - ①事業場周辺の清掃活動(事業場～磯子駅)、②環境パネル展(横浜市、磯子区)
 - ③アマモ花枝採取会(2009年6月)、種まき(2009年11月)
- ・行政との協同行事
 - ①環境映画上映会(2009年6月、磯子区役所)
 - ②ハマロード・サポーター活動(道路の清掃活動)(磯子土木事務所)
 - ③環境インターンシップ受入(2009年9月、神奈川県 大学生3名)
 - ④改正省エネ法講座(2010年2月、経済産業局から講師招聘、近隣企業の方も参加)



環境方針

生産技術センターは、東芝グループの生産技術の研究開発拠点として「モノづくりの技術と仕組み」を発信する役割を担い、薄膜プロセス、実装、光品質および計測管理、精密部品、制御、メカトロニクス、生産システムに関する技術開発を行うとともに、建築設計のサービスの提供を行っています。

そして、「**かけがえのない地球環境**」を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、**東芝グループ環境ビジョン**のもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ることで**持続可能な社会**へ貢献します。

●環境経営の推進

1. 環境への取り組みを、**経営の最重要課題の一つとして位置づけ、経済と調和させた環境活動を推進**します。
2. 事業活動、製品・サービスに関わる環境側面について、**環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止**などに関する**環境目的及び目標を設定**して、環境活動を推進します。
3. 監査の実施や活動のレビューにより**環境マネジメントシステムの継続的な改善**を図ります。
4. 環境に関する**法的要求事項及び生産技術センターが受入を決めたその他の要求事項を順守**するとともに、さらに**自主基準**を設けて管理します。また、東京湾に排水する立地環境を認識し、排水管理を徹底します。
5. **構内常駐会社を含む事業場内従業員の環境意識をより高め、全員で取り組み**ます。

●環境調和型生産技術の提供と業務プロセスでの環境負荷低減

1. **CO₂排出抑制、化学物質の含有削減・代替化、資源有効活用、3R**を柱とした**環境調和型生産技術を創造**し、東芝グループに提供していきます。
 - (1) 地球環境に有益性のある**環境調和型研究テーマの推進**
 - (2) 生産設備のライフサイクルを通じて、**環境負荷の低減に寄与する環境調和型設備開発の推進**
 - (3) **技術成果の指標化による自己評価に基づいた、環境調和型生産技術開発の加速**
2. **全員参加**により、業務プロセスを通じて発生する**環境負荷の低減**に取り組みます。
 - (1) 研究設備、動力供給設備等に関わる電気、都市ガスの有効利用と削減による**省エネルギーの推進**
 - (2) 廃棄物総排出量の削減と再資源化施策の徹底による**廃棄物ゼロエミッションの継続**
 - (3) 環境に配慮した資材購入を図るための**グリーン調達**の推進

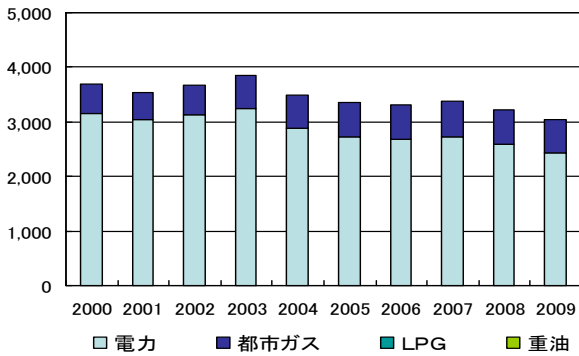
●地球内企業として

環境活動を通じてより良い地球環境の実現を目指し、**地域・社会との協調を図り、積極的な情報開示とコミュニケーション**を行います。

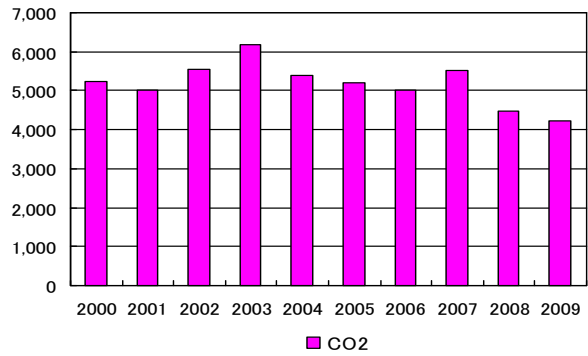
2010年4月1日 生産技術センター 所長 隅田 敏

環境負荷データ

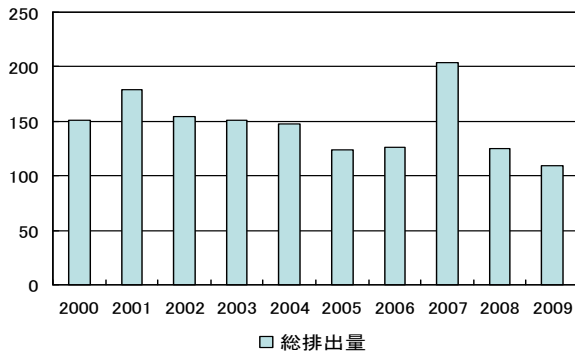
エネルギー使用量(単位:KL)



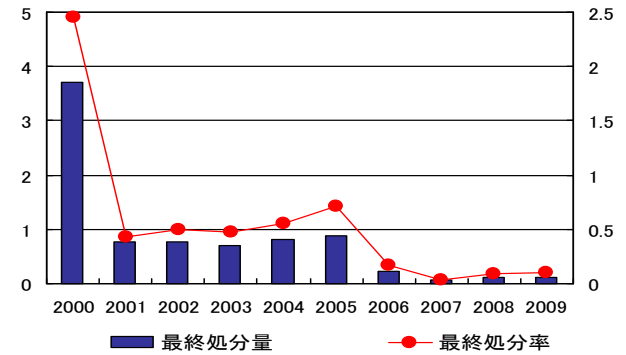
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

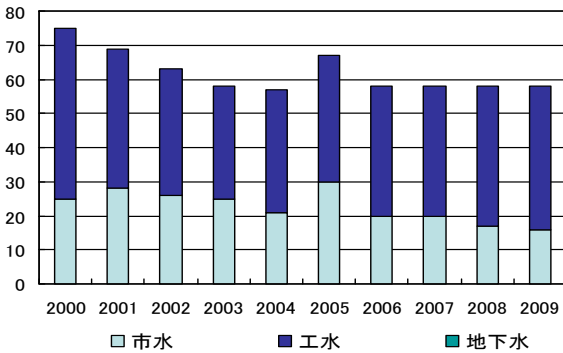


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

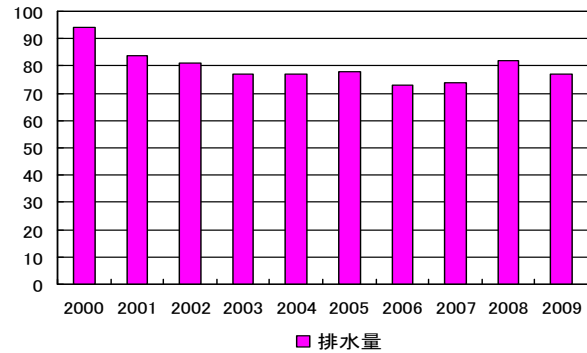


主な廃物名:酸、汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油等

水の使用量(単位:千m³)



排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量推移(トン)

非該当

化学物質削減対象物質の排出量推移(トン)

非該当

遵法管理状況

大気測定結果(小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 3台)

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	94 46	≤85 ≤45	42~56 28~35	年2回
SOx(Nm ³ /h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm ³)	対象外	対象外	対象外	対象外

排水測定結果(主な測定結果)(最終排水口、東京湾へ放流)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8~8.6(市条例)	6.5~8.3	7.1~7.8	月1回および連続
BOD(mg/ℓ)	25(市条例値)	15	2~4	月1回
COD(mg/ℓ)	25(市条例値)	15	3~5	月1回および連続
SS(mg/ℓ)	70(市条例値)	10	3~6	月1回
窒素(mg/ℓ)	50(市条例値)	10	2~4	月1回および連続
フッ素(mg/ℓ)	15(市条例値)	5	~0.7	月1回

騒音・振動測定結果(特定施設なし、工業専用地域にて法規制対象外、自主管理として昼間騒音・振動を測定)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	≤75dB(市条例)	≤74dB	57.0~68.1	年2回
	敷地境界:夜	—	—	—	—
振動(dB)	敷地境界:昼	≤70dB(市条例)	≤59dB	31.2~44.1	—
	敷地境界:夜	—	—	—	—

その他測定結果(下水道法:主な測定結果)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	—	—	—	—
BOD(mg/ℓ)	—	—	—	—
SS(mg/ℓ)	—	—	—	—

環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし